

I 研究主題

自ら考え、学び続ける生徒の育成

～探究的な学習を通して～

II 主題設定の理由

1 学校教育目標及び本校生徒の実態から

本校では、学校教育目標を「進んで学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる人」とし、社会の変化に主体的に対応できる心豊かな人間の育成を目指している。

本校の生徒は主に5つの小学校から入学している。いずれも小規模校のため、学習では個に応じたきめ細かな指導を受けている。しかし、中学校入学時に初めて30人規模の学級集団の中に入り、友人関係に戸惑うことや、学校以外での生活経験が豊富でないことなどの課題点が挙げられる。また、総合的な学習の時間に関わる資質・能力についてのアンケートを取ったところ、「探究課題の解決に向けてさらによい方法を考える」という項目において積極的肯定の割合が3割程度と低いことが分かった。その要因として、総合的な学習の時間において、例年決まった体験活動が行われ、毎年同じような学習活動が展開されていることが考えられる。

そこで、総合的な学習の時間における学習を、生徒の課題意識に基づく主体的な学習に改善し、仲間と協働して問題解決を行う学習を通して達成感や満足感を味わうことができるようにすることにより、新たな学びに向かう生徒を育てることができると考えた。このことは、学校教育目標が目指す生徒像の具現化にも繋がる。

2 教育の今日的課題から

平成29年に示された学習指導要領では、予測困難な時代に子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。また、問題を解決するためには「①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現」という探究的な学習の過程をより一

層充実させることが求められている。

以上のことから研究主題を「自ら考え、学び続ける生徒の育成～探究的な学習を通して～」とし、総合的な学習の時間における探究的な学習の改善を通してその実現を図ろうと考えた。

III 研究の目標

「自ら考え、学び続ける生徒」とは、実社会・実生活の中から課題を立て、目的に応じて様々な方法や手段で収集した情報をもとに整理・分析し、自分の考えをまとめたり相手意識をもって発信したりすることができる生徒である。総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習の在り方を見直し、単元構成の工夫をすることで「自ら考え、学び続ける生徒」の具現化を目指す。

IV 研究の手立て

本校は平成29年度から奥州市教育委員会の指定を受け、総合的な学習の時間における探究的な学習の過程を実現する研究を行ってきた。3年目となる本年度は以下の3つを研究の重点とした。

1 育成を目指す資質・能力の明確化

学習指導要領では、総合的な学習の時間において育成することを目指す資質・能力については「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理された。

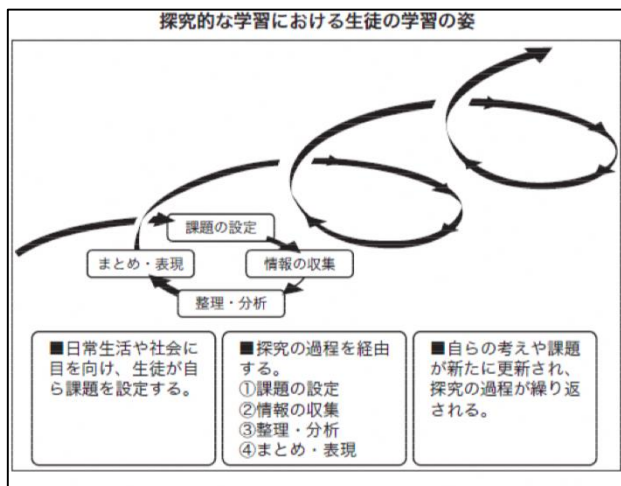
本校では、総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力を本校の学校教育目標等に基づき、全体計画を作成した。この全体計画を基に、系統性を考慮しながら、単元、単位時間で育成を目指す資質・能力を明らかにし、指導、支援の構想を立てる。

目指すゴールを明確にした上で、探究的な学習の過程を繰り返し発展させていくことで設定した資質・能力が身に付くようになることを考える。

2 探究のプロセスを大切にした単元づくり

探究のプロセスとは、実社会や実生活に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心にに基づき、自ら課題を見付け、その解決に向けて情報を収集し、その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、明らかになった考えや意見などをまとめ・表現する過程のことである。また、一つの課題解決から新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していくことである。

本校がこれまで行ってきた体験活動（職場訪問、職場体験活動等）を、このような「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」といった探究のプロセス（図1）を意図的に位置付け学習活動を繰り返し、発展させていくことでより効果的に資質・能力を育むことができると考える。



（図1 探究のプロセスのイメージ）

3 振り返りの工夫

学習を振り返るという行為は、自らの学びを意味付けたり、価値付けたりと学びを自覚化させるものであり、主体的に学び続ける力を育成するために是非とも必要な場面である。単元や授業の最後だけではなく、探究的な学習の過程で振り返って考え直すなど適宜行っていくことも大切である。本校では振り返りの視点を①学習内容そのものの振り返り（事象の振り返り）②学習内容を自己とつなげた自己変容の自覚（自己の振り返り）と設定した。そして生徒が充実した振り返りを行

えるよう、次のような実感を得られることを目指し、単元や授業の構成を行っている。

- 「学習してよかった」「おもしろい」といった充実感・満足感
- 学習を通して自分自身の成長（資質・能力の高まり）を実感するといった自己有能感
- 仲間と協働して学習することで考えの広がりや深まりを感じる一体感

生徒がこのような実感を伴った振り返りをするためには、憧れの人との交流などといった本物の人やこととの出会い等、探究のプロセスの充実も必要不可欠であると考えます。

V 研究の実際

全体計画の立案にあたっては、各学年の体験活動を学習の核とし、それぞれを有機的に結びつけ探究のプロセスを意図的に位置付けることで、探究的な学習が発展的に展開されることを目指した。

1学年の被災地・企業訪問、2学年の職場体験活動、盛岡自主研修、3学年の修学旅行については、それぞれのねらいを再確認し、総合的な学習の目標に迫るための3年間の見通しと照らし合わせながら具体的な内容を検討・変更した。3年生の後半には3年間の総仕上げとして、改めて地域を見つめ直し、自己の生き方について考える単元「地域活性化プロジェクト」を設定した。

第3学年「地域活性化プロジェクト」（全48時間） ＜単元の概要＞

本単元は、地域の課題を自ら発見し、その解決に向けて江刺の特産物である「江刺りんご」を題材に地域の魅力を全国に発信することを狙った。学習活動を通して自分の地域には誇れるものがあることを再確認したり、ブランディングするために生産・流通など様々な方々の努力に支えられていることを知ったりすることができるようにしたいと考える。そして、地域のよさと自分たちの生き方との関わり方を考えることを通して地域の一員として持続可能な地域を創ることへの意欲をもつとともに、地域との関わりの中で、自分の生き方について考えることを目標に単元を構成した。

1 育成を目指す資質・能力の明確化について

総合的な学習の時間の全体計画と生徒の実態をもとに、本単元で育成を目指す資質・能力を以下のよう

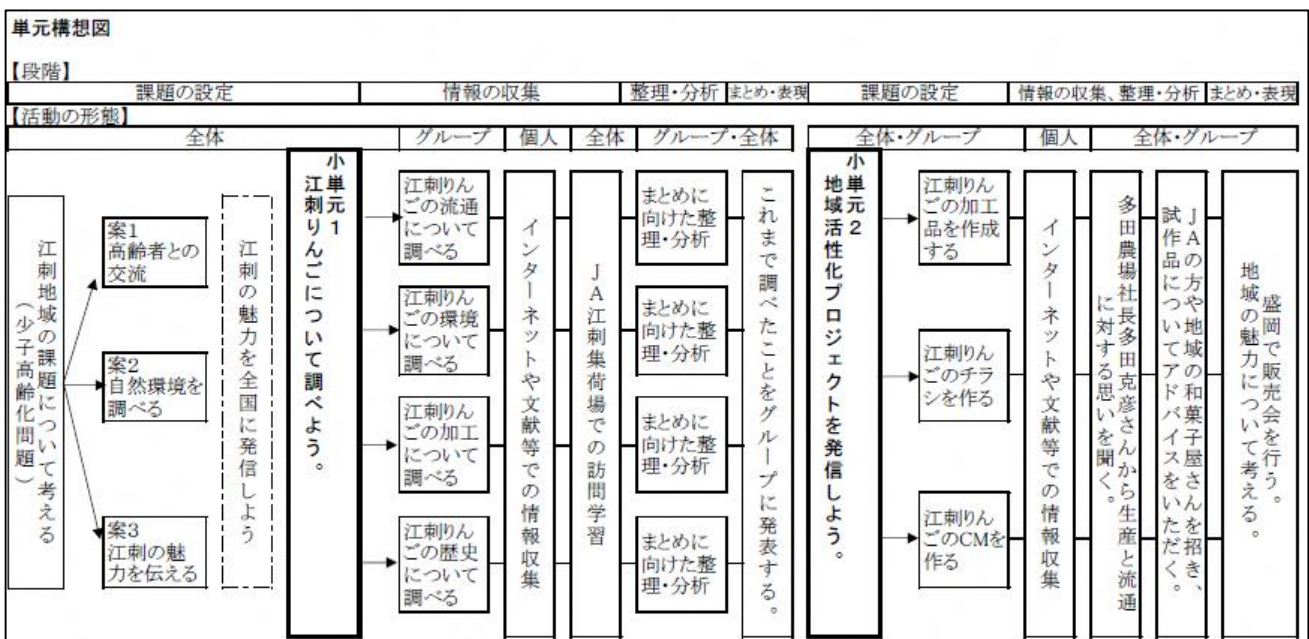
に設定した。

		育成を目指す資質・能力
知識及び技能		・生産者と流通者の努力や商品開発に携わる方の思いに触れ、江刺地域の環境のよさや様々な人の思いや連携・協力があるといった地域の魅力を創り出している環境要因や人的要因があることに気付く。
思考力・ 判断力・ 表現力等	課題の設定	・課題解決のために複数の解決方法から適切な方法を選び、探究計画を作成する。
	情報の収集	・インターネットやアンケート調査、インタビュー活動など目的に応じて情報を収集する。
	整理・分析	・生産者や流通者など様々な立場の人の思いや考えを比較・分類する。 ・調べた情報からプロジェクト内容に活かすように分析する。
	まとめ・表現	・調べたことを、視点をもとに簡潔に表現し、仲間に伝える。 ・江刺りんごの特徴やよさをお客さんに分かりやすいように伝える。
学びに向かう力、 人間性等		・探究的な学習に主体的、協働的に取り組むとともに自己の生き方について考える。 ・地域の魅力を発信する活動を通して、持続可能な地域の創造の視点で、自ら社会の参画しようとする意欲をもつ。

3年間の総仕上げとして単元を構成し、育成を目指す資質・能力を明確にすることで、課題解決に向けて様々な方法や手段を活用できることを確認したり、教師側がはっきりと授業のねらいをもったりすることができた。

2 探究のプロセスを大切に単元づくりについて

「地域課題の解決」のために江刺の特産物である「江刺りんごの魅力を発信する」という生徒の課題意識と、育成を目指す資質・能力をもとに以下のように単元を設定した。



(1) 小単元1「江刺りんごの秘密について知ろう」(23 時間)

ア) 課題の設定

長期休みの課題をもとに、地域(江刺)の課題や魅力を保護者や親戚、市議会議員、市役所にインタビューをし、解決すべき課題について考えた。

教師から一方的に課題を与えるのではなく、インタビューに基づく話し合いを通して課題を設定することで、「解決したい!」という切実な課題意識が生まれ、この後の探究活動を支えることにつながった。

T:インタビューの結果から江刺の課題は何ですか?
 S:課題は交通の便が悪いことや商業施設(コンビニ等)がないことです。
 S:親は少子高齢化が課題だって言っていたよ。
 S:市役所では、カーブミラーの設置とか交通関係の課題も多かったよ。
 S:市議会議員さんのスタジアム建設は私たちが可能なかな…
 T:解決する課題はどうしますか?
 S:若い人も少ないし、多くの人が少子高齢化って言っているからやっぱり少子高齢化じゃない?
 T:では江刺の少子高齢化を解決するためにはどうすればいいですか?
 S:地域の行事に高齢者を参加させるためにも高齢者と触れ合う機会をつくらばいい。
 S:江刺にはホテルが見られるところがあるから自然のよさを守りたいなあ。
 S:江刺の魅力を全国に伝えればたくさん人が来るんじゃない?
 T:江刺の魅力って何ですか?
 S:岩谷堂筆筒。
 S:江刺金札米。
 S:江刺りんご。
 S:江刺りんごなら1箱100万円って聞いた!これなら全国に勝てる!
 T:それでは江刺りんごを全国に宣伝することを通して江刺の魅力を伝えましょう。

イ) 情報の収集

生徒に江刺りんごの価値について聞いてみると、全国でどのように評価されているのか、なぜ高い卸値が付けられているのかなど明確な答えをもっていなかった。そこで、江刺りんごの秘密について文献やインターネットで調べたり、JA 江刺の集荷場を訪れたりして調査活動を行ったりした。(写真A)



(写真A 生産者の方から話を聞く様子)

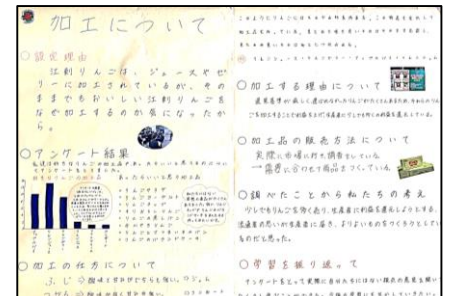
体験活動を通して施設見学や生産者の思いや流通者の願いなどを直接聞くことで、感覚的情報を収集したり、課題解決に迫る答えを聞いたり、多面的・多角的に情報を収集することができた。

ウ) 整理・分析

生徒は、これまで得た情報を江刺りんごの「加工」「流通」「評価」「環境」等の視点をもって情報を分類し、整理した。また、加工商品について調べたグループは今後の活動を見通して、「どんなりんごの種類が好きか」「りんごの加工商品の中で何が好きか」などについて実際に産直を訪れ、アンケート調査を行った。必要に応じて再度、情報の収集を行っている様子も見られた。

エ) まとめ・表現

これまで学んできたことを学級の仲間に紹介することを目的に模造紙にまとめ、互いに発表会を行った。様々な視点をもって調べた各グループの発表を聞いて、さらに深く江刺りんごについて知る機会となった。(写真B)



(写真B 加工グループの制作物)

(2) 小単元2「地域活性化プロジェクトを発信しよう!」(25 時間)

ア) 課題の設定

江刺りんごの秘密について調査する活動を踏まえ、課題を発展させ、探究のプロセス2周目を実施した。

T:どのようにして江刺の魅力を発信しますか。
 S:江刺りんごの環境のよさについて調べたのでそれをチラシにしたいです。
 S:江刺りんごの素晴らしさをCMやHPにしたいです。
 S:江刺りんごの美味しさを知ってもらいたいから加工商品を作りたいです。
 T:そのためにはどんなことを調べたいですか。

イ) 情報の収集

生徒は江刺の魅力を発信するために目的に応じて必要な情報収集を行った。しかし「本当に魅力を全国に発信できるのか？実現するのか？」と活動のゴールに不安を感じる生徒も中にはいた。そこで、自らの牧場で生産し、自社ブランドで全国・世界へ商品を展開している遠野市の農業経営者多田克彦さんの話を聞く機会を設定した。(写真C) 生徒は、商品開発をする上で、失敗を恐れず挑戦し続ける気持ちを学んだ。

生徒が本気になって活動するために、教師自身も一緒になって探究することで想像をこえる出会いや発見があることを感じた。



(写真C 胆江日日新聞 平成30年11月17日付)

ウ) 整理・分析

これまでの活動や多田克彦さんの講演を振り返り、自分たちのプロジェクトに活かせることを考えたり、仲間にアドバイスをしたりしてプロジェクトをよりよいものに練り上げる活動を行った。そして生徒が発案して実際に加工した江刺りんごの商品やCMなどをこれまでお世話になったJA職員の方や地域の和菓子店の店長さん、家庭科担当に来ていただき試食会を開いて提供・披露した。(写真D) 試食会で見つかった課題や改善点をもとに販売活動に活かした。



(写真D プロジェクト内容をプレゼンする場面)

エ) まとめ・表現

実際に盛岡の川徳前と肴町アーケード内の2箇所で開催した江刺りんごの加工品の販売と宣伝チラシを配布した。(写真E)

加工商品に関して販売会当日に調理を行わなければならなかったことや2箇所で開催したため、十分な数を用意することはできなかったが、およそ100個が15分程度で完売した。生徒は直接お客さんと触れ合うことで江刺りんごを宣伝したり江刺の魅力を発信したりすることができた。また、お客さんとの会話の中で「また来年もきてね」と言っていたら単元の学習として達成感や充実感を味わっている様子だった。



(写真E 岩手日報 平成31年3月9日付)

生徒の課題意識をもとに探究のプロセスに沿って学習過程を構成することで生徒が自ら産直に出向きアンケート調査を行ったり、次々と調べたいことが出てきたりと主体的に活動を行った。生徒の主体的活動をさらに活かすためにも、生徒にもっと委ねてもよかったと感じた。

3 振り返りの手立ての工夫について

生徒が学習対象を振り返り、「本気で書きたい！」と思うためには、探究のプロセスの充実が必要不可欠である。その上で、2つの視点（①学習内容②自己の変容）を与え、振り返りを行った。

以下の生徒の振り返りは、農業経営者多田克彦さんの講演後のものである。

<生徒の振り返り>

- ・たくさん苦労し、たくさん努力をしたからあんなにすごい人になったんだと思いました。私も失敗したら何が原因だったのかを考えられるような人になりたいと思いました。
- ・商品作りは簡単なことじゃないと思いました。今から色々なことに目を向けて活かしていきたいです。
- ・多田さんのお話を聞いて本当に勉強になった。目標を高く持ち、いいプロジェクトにできるように協力して頑張りたい。とてもいい機会を作っていただいて…もうほんとに感謝ですね。

自分たちが探究していることについて本気で取り組んでいる人に出会うことにより、地域の魅力を実感し、その魅力を発信するための努力や実際に「プロジェクトを発信する」気持ちの高まりを感じた。

VI 研究の成果と課題

<成果>

1 育成を目指す資質・能力の明確化について

単元構成を行う際に、育成を目指す資質・能力を明確にすることで、効果的に学習活動を組むことができるようになった。また、評価場面を適切に設定することにより、発問の吟味と明確さを高めることができた。

2 探究のプロセスを大切にしたい単元づくりについて

従来の総合的な学習の時間が、体験活動ありきの考え方になっていた実態から、探究のプロセスを意識的に位置づけ単元を再構成した。育てたい資質・能力を明確にすることで体験活動がより意図的・効果的な学習になり、教師も生徒も予想を超える人との出会いや活動を行うことができた。また、地域人材やメディアの力も借りることで保護者・地域に開かれた学校作りにつながった。

3 振り返りの工夫について

振り返りを単なる感想記入ではなく、育てたい資質・能力などを踏まえた視点を与えて振り返らせることで、単元や授業のねらいが達成できたか、生徒が実感をともなって理解できているかを確認することができた。また、生徒の記述の中には様々な人との触れ合いの中で生涯に渡って学び続ける大切さを感じることや体験活動を経験し、学習することの必要性を感じていた。

<課題>

- ・他教科との関連に偏りが見られた。全ての教科が意図的に関連付けられた教材の開発が必要である。
- ・生徒の課題意識に沿った探究的な学習の在り方を引き続き考える。
- ・3年間を見通してより系統性のある年間計画を作成する。

引用・参考文献

- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」東山書房
- ・文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」教育図書
- ・「深い学び」田村 学 著 東洋館出版社
- ・平成29年度二戸市立浄法寺小学校公開研究会研究紀要